

.....

.....

.....

1

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[31]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[10] 年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 B	年齢[29]歳、 勤続年数[10]年、 現場経験年数[10]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [初めて]、 任務 [隊員]
○当事者 C	年齢[]歳、 勤続年数[]年、 現場経験年数[]年、 階級[]、 同様の活動 []、 任務 []
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	当事者 A と B が	右岸から入水し、えん堤から下流 5 m までの範囲を、命綱なしの状態でバディにより川底を検索した。	
経過 2	当事者 A と B が	検索中、気付かないうちに河川中央部の急流に引き寄せられていた。	
経過 3	当事者 A と B が	水面に浮上した際には急流の中に位置していた。	
経過 4	当事者 B が	自力で右岸に戻った。	
経過 5	当事者 A が	えん堤部分の落ち込みにより発生していたバックウォッシュに巻き込まれ水底に引き込まれた。	
経過 6	当事者 A が	ウェイトベルトを離脱し浮上に成功したが、更に 10 m ほど下流に流された。	
経過 7	当事者 A が	自力で右岸に戻った。	
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

● ●

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。避難・退避がうまくいった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・ 1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・ 活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・ 体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：河川知識の欠如・救出方法の選定ミス

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

○ヒヤリハット事例:河川における水難救助現場でバックウォッシュに巻き込まれた。

(同様の体験は、初めて体験した。)

(08H0031)

・発生日時 :平成10年6月8日 午前11時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	備考
		隊員／消防士長 ・年齢 31 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動:初めて	隊員／消防士 ・年齢 29 歳 ・勤続 10 年 ・現場 10 年 ・同様の活動:初めて	
	出動指令		水難救助	
	水難救助現場。急流河川のえん堤部分。	流向・流速を確実に把握しないまま右岸から入水し、えん堤から下流5mまでの範囲を、命綱なしの状態バディにより川底を検索した。		河川のえん堤部分に水没していると思われる要救助者救出のため。
	↓			
	検索中、気付かないうちに河川中央部の急流に引き寄せられていた。			
	↓			
	水面に浮上した際には急流の中に位置していた。			
	↓			
	自力で右岸に戻った。			
	↓			
	えん堤部分の落ち込みにより発生していたバックウォッシュに巻き込まれ水底に引き込まれた。			
↓				
ウエイトベルトを離脱し浮上に成功したが、更に100mほど下流に流された。				
↓				
自力で右岸に戻った。				

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因:状況判断に問題があった。行動の実行に問題があった。 ・危険事象の対応方法を知っていた。 ・避難・退避がうまくいった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。 ・活動に対する経験が不足していた。 (その他) ・河川知識の欠如・救出方法の選定ミス